

ゆめまくら く偲びの心



夢を語ることが少なくなった。まわりでは話題にも挙がらない。やはり年相応といったところだろうか。夢を描いて邁進するほどの気力は無い、体力が年々落ちて

いることも実感としてある。どこか出掛けるにしても、何かしら義務感が付き纏うことを耳にしたりもする。子どもが、とか、妻が、とか……。かくいう私も、主語を自分にすることが少なくなって久しい。

違う。この度はそういった希望に満ち溢れた夢の話ではない。睡眠中の夢の話である。私は昔から度々夢の中で何者かに立たれることがあった。そう、所謂夢枕である。齢も四十を超えてそんな話を真面目にしようものなら、まわりから「夢でしょ?」と一蹴され、何かを察せられる。いや、されてきた。

怪しい、と思った方は正しい。私もそう思う。しかし、考えていただきたい。昔から夢というものを実しやかに語ってきた歴史が、日本にはある。

『日本書紀』では神武東征の段で夢枕に立つて剣を授ける記述があるし、彼のお釈迦さまのご生誕にも夢は関わっている。僧侶でいえば明恵上人の『夢記』が有名だろうし、我が宗でドラマチックに描写される善導大師と法然上人の「二相對面」も夢の中の話である。

虎の威を借りて続けるが、近親者が夢枕に立ったという話はよく聞く。が、私の場合は全く知らない人から動物のような異形のものまで様々である。で、決まって話し掛けてこない。立っているだけである。ただ、気持ちは伝わるというか感情を抱かせてはくれる。それは言語ではないから言葉で表現はしづらいが、雑把に例えればBGMの様なものだ。

BGMだから、私は只タイインタビュアーのような気持ちで感情を込めず「あーそうなんですねー」と聞き流すのみである。そもそも知らない方が大半であるし、具体的にどうしてくれなんてことは告げられたこともない。

つまり、どうしようもできないのである。頭を悩ませた時期もあったが、いつの頃からか私は考えるのをやめた。

ところが、である。今の寺に住まわってから法衣を身に纏う方が夢に立たれた。連日、数日おきと何回も立ち、淋しげな感情を抱かせてくださる。無論、全く知らない方である。

夢なんていうものは起きてからしばらくすれば大体忘れていくものであるが、この方はどうも印象に残って日中も思い出すことがしばしばあった。私は何となくその方を思い出し、手を合わせることが増えた。

すると、数か月が経ったのちに立たれた方が判明した。ご縁のあったお寺で、ひよんなことから遺影を拝見したのである。さらにタイミング良く、遺影の僧侶とご縁のあった方から人柄を知る話も聞かせていただけだ。その話に何だか淋しくなり、出来ることはないかと位牌を拵えて供養を施した。

その日以来、不思議と僧侶が夢枕に立つことは無くなった。結局何だったのだと言いたくなる出来事ではあるが、私は一人で満足感に浸っている。きっと彼の僧侶も。 やっさん

人口減少



昨年末、近くにあったスーパーマーケットが店を閉め、新しくイオン系の店になりました。オープン当時は従来の有人レジが一箇所のみで、セルフレジがずらりと並んでいました。今まで働いていたレジのおばちゃん達は失業したのでしょうか。しかし、来店するたびに従来の有人レジが増設されています。店内では、「セルフレジが空いています」と何回も放送されていますが、有人レジには列ができています。新しいものに抵抗がある人が多い地域性なのかも知れません。セルフレジは人件費の節約の他に、現在進行している人口減少による労働力不足を補う手段になるでしょう。これから日本は人口減少を AI や5Gの技術を使い、屈指して対処していくのでしょうか。

先日、中国国家統計局が当国の人口が61年ぶりに減少したと発表したニュースが流れました。前年より85万人の減少だそうです。しかも国家統計局が予想していたよりも18年も早く減少が訪れたとの事。コロナに加え、「一人っ子政策」を行ったことで、若い男女の人口比率が男性の方が不自然に多くなり、結婚できない男性が多く存在します。それに加え、若者の就職難、住宅価格の高騰が結婚を妨げています。中国

では男性が新居を用意して妻を迎えるという習慣が残っているためです。人口を急に増やすことは困難で深刻です。

昔の話として聞いてください。左の絵は江戸時代初期に描かれ、実際絵解きに使われていた「地獄図」の一部です。「不産女(うまずめ)地獄」という女性だけが落ちる地獄です。生前に子供を産めなかった人、もしくは一人しか産まなかった人の地獄です。二人産まないで人口が維持できなかったからでしょう。現在からしてみれば人権の欠片もない酷い考え方です。江戸時代の産業は、ほとんどが人力でしたので、人口減少は現代より深刻な問題であったことが想像されます。これを熊野比丘尼(くまのびくに・修験者の妻で熊野詣での観光PRを全国で行っていた女性)が縁日などで女性を集めて「子供を二人以上産んでくださいね」などと絵解きをしていたのでしょうか。



ちなみに、男性が落ちる地獄も用意されています。見ての通り、不倫をした人が落ちる「両婦地獄」。苦しそうですね。お次は「刀葉林(とうようりん)地獄」。



「刀葉林(とうようりん)地獄」。ストーカーをした人の地獄です。美女に会いたくて、葉が刃物でできた大木を血だらけになって登らされる地獄です。当時も、ストーカーはいたのですね。どの地獄も現代と共通する問題を抱えていたことに大変興味をそそられます。

俊徳丸

こもりうた98

2月6日、トルコで大地震が起きました。

2月15日現在、死者は4万人を超えました。見つかっていないだけです。まだまだ死者数は増えるでしょう。トルコ、シリアは治安が悪い上に、とても寒いのだそうです。被災者の人々の絶望の声が聞こえてきます。

ワイドショーでは連日、そんなトルコの惨状を語り、廃墟と化した街の映像を流した後、次のコーナーでは各デパートのチョコレート売り場が映し出されます。パティシエの誰それさんのショコラを買うために長く長く行列ができている映像。とても複雑な気持ちになります。チョコレートを買うなど言っているではありません。にぎにぎしく開催されているバレンタインチョコ会場を閉鎖しろと思っているわけではありません。ただ、その映像を今、流す必要がありますか、と思うのです。グレーのモヤモヤで胸が詰まる日々です。

さて、2月から我が息子は歯の矯正治療を始めました。3、4歳頃から一抹の不安がよぎるお口でした。永久歯に生え変わればイイ感じになるかしらという淡い希望も虚しく、定期的に通う歯科医から「出っ歯確定」の診断が下されました。夫も夫の母親も同じ形をしています。遺伝です。無念です。

子どもの矯正は成長する力を使うのだそう、大人の矯正治療に比べて時間も費用も半分と言われました。出っ歯や八重歯に愛嬌を感じる時代ではないのだそうです。将来、「マ

マ、あの時歯を治してくれてありがとう」と言ってくれることを夢見て、大枚をはたこうと決断しました。

子どもの矯正（息子のケース）は二段階治療。最初は「12時間装着マウスピース」。学校から帰宅後装着。食事の際は外し、済んだら歯磨きをして速やかに装着。そして、就寝時は最も重要。ところが、お口をパツクリ開いて寝る息子は気づくと枕元にマウスピースがコロンと転がっている始末。おそらく、異物感で無意識に吐き出しているようです。そんなことでは意味がない！と焦るのは私だけ。気になって気になって、最初の1週間は度々目を覚まし、拾っては息子の口に押し込んでの繰り返し。唇を絆創膏で閉じてやろうかと何度思った事か。しかし、人間の順応性をあなどるなかれ、1週間を過ぎた頃からは、ちゃんと朝まで口に収まっているようになりました。

まだまだ先は長いようですので、気長にコツコツ続けられるように促すのが親の役目です。「入れ歯洗浄剤」を買い求め、毎朝マウスピースを洗浄するのも私の役目。私が老いたら私の入れ歯を息子が洗ってくれると信じて。



訶梨帝母

『私説法然伝』(97)

助けてほしい⑫

先月号では法然上人に帰依した甘糟太郎忠綱について書きました。今月号はその続きについて書きます。

【甘糟太郎忠綱以外にも関東の御家人の中に法然上人と本願念佛に帰依した者がいた。つとのさけづかうためもり

津戸二郎為守つとのさけづかうためもりである。源頼朝の東大寺落慶法要参列に伴って上洛した津戸二郎為守は法然上人に出会い弟子となった。そして関東に本願念佛の教えを広めることになったのである。三代將軍実朝の悲劇的な暗殺以後に彼は出家する。そして念佛者として実朝の菩提を弔い、本願念佛の中で生きた。

当時の新興勢力または時代の新たな主役であった武家・武士に法然上人の本願念佛の教えは広がっていったのである。それは彼らが求める「助け」が本願念佛にあったからである。

もちろん本願念佛の教えは武家・武士だけでなく、ありとあらゆる階層の人々に

広まっていくのである。当時一番「死」そのものに近かったのが戦闘集団である武士達であるが、現代では考えられないぐらい「死」そのものが身近であった時代である。誰もが「後生」という死後の不安を抱えて生きていた。そして生きている間の苦しみや不安というものにどうしたら良いのかという答えも求めていた。

当然のことだが、法然上人の弟子や信徒となる人々には、僧侶や貴族や武士以外の様々な階層の人々が多かった。記録にないからいなかったのではない。記録に残るのは氏名などがはつきりと他の資料などでもわかるような人だから残っているのである。そのことは歴史文献を「逆」に読むことで判明する。例えば慈円僧正の残した第一級資料である『愚管抄』の法然上人の臨終の様子ぐかんしょうの記述からもそれがわかる。名前はわからないが様々な人々が法然上人を慕って最後の別れにつめかけたのである。それは法然上人とその話す言葉が多様な人々に受け入れられていたことの証明である。単純に有名だから高僧と評判だからというだけ

で人々が押しかけるわけではない。人間の心理や心情を含めて「逆算」しなければどんな歴史資料も読み解け無いのである。】

本願念佛とは、佛は一切の差別なく人を救うという働きです。法然上人はその本願念佛を広められたわけです。当然ながら一切の差別なく人々と接し話をされたことでもあります。それは「宗教革命」とも言うこともできます。以下次号に続く(征阿)

墨染の衣しか着れない自分の、身の程を越えることだが、この世で苦しむ人々を全て救いとりたいのだ、という意味の慈円僧正の歌

